

7. 可能补语，表示动作可能性的部分。
8. 程度补语，表示动作或状态的程度的部分。一般为形容词或者表示状态的句子。
9. 趋向补语，表示动作行进方向或状态转变方向的部分。趋向补语分为“单一补语”和“复合补语”。“单一补语”位于宾语之前。例如：他爬上山了。**如果是**“复合补语”，宾语则位于两个补语之间。比如：他走上楼来了。

“单一补语”时，一定有宾语。“复合补语”时，可以没有宾语。
10. 宾语，表示动作的对象、动作的承受者的部分。宾语一般为名词，有时句子也可以作为一个整体做宾语。宾语实际上是附属

于谓语动词的。很多句子可以没有宾语。

(基本句型二)

[地点状语] }
 + (主语的定语) 主语 + 谓语形容词 + 补语
 [时间状语]

说明：

1. 形容词和动词都可以作为谓语，但不可同时存在。一个句子只能有一个“谓语动词”或者“谓语形容词”。用于修饰名词的形容词不在此类。
2. 谓语形容词后可以有表示程度的补语。
3. 判断词“是”是动词，不可以与形容词同时使用。“是……的”句型里，可以出现动词或者形容词，这是因为句末的“的”字已经将文中的动词或者形容词转变为名词了。因此如果用这一句型，一定不要忘了句末的“的”。

(基本句型三)

主语 + 是 + 名词。

说明：

“是”后面一定不可能用形容词。修饰名词的形容词除外。

(基本句型四)

主语 + 名词。

说明：

此句型为句型三的省略。但仅限适用于“今天星期天。”等少数情况。

(基本句型五)

直接使用动词或形容词，无需其他部分。即，一个动词或一个形容词可以构成一个句子。

例如： 好！ 看！ 好吃！

说明：动词和形容词是一个句子的核心。一个句子可以没有宾语，没有补语，甚至没有主语，但是一定不可以没有动词或者形容词。(用于修饰名词的动词和形容词不算)

例句：

基本句型一

时间状语

主
语

1. [去年夏天]，(刚刚考上大学的)我，[为了犒劳自己]，[和
朋友][一起]去了<一趟>夏威夷。

状语

① 目的状语，介词+
句子

② 方式状语，介词+
名词

③ 副词

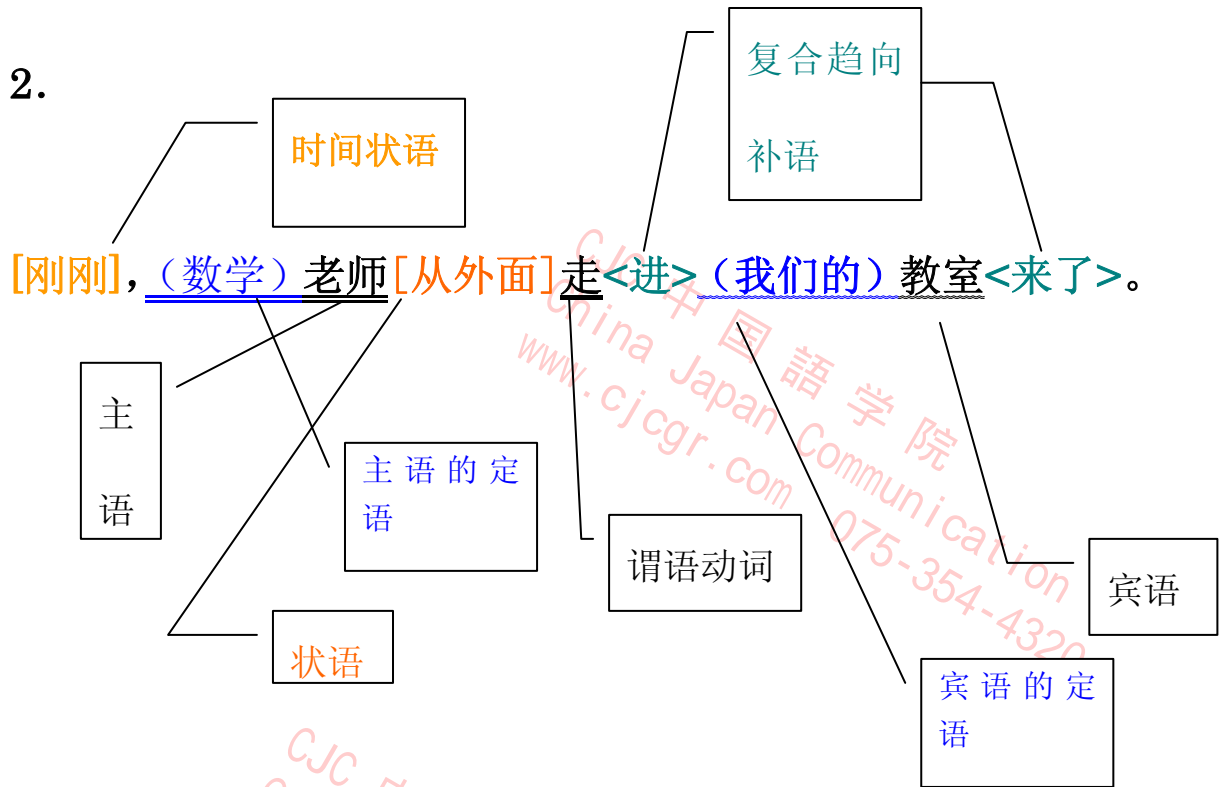
主语的定语

谓语动词

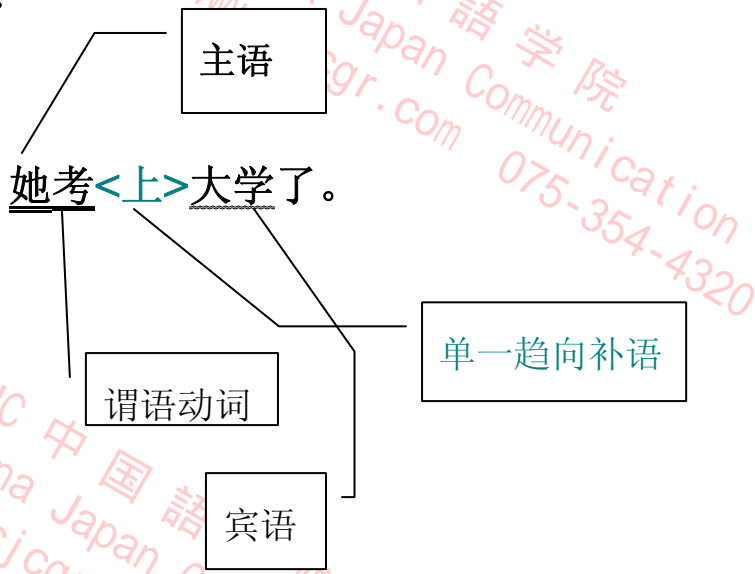
宾语

动量补语

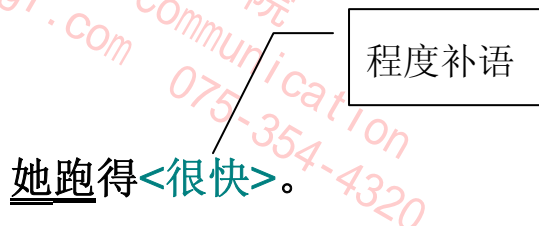
2.



3.



4.



基本句型二

5. [现在], 他瘦得<很>。

基本句型三

6. 她是学生。

注意：“是”的后面一定只能是名词，除了“是……的”结构以外，不可以在“是”的后面使用形容词或动词。如果使用“是……的”结构，一定不要忘掉句尾的“的”。

例如：×她是漂亮。

○她漂亮。

○她是漂亮的。

基本句型四

7. 明天二号。

明天晴天。

注意：一般不用，仅在表达部分日期、时间及天气时使用。

基本句型五

8. 来!

好!

练习:

藤野先生 (中文)

鲁迅

东京也无非是这样。上野的樱花烂漫的时节，望去确也象绯红的轻云，但花下也缺不了成群结队的“清国留学生”的速成班，头顶上盘着大辫子，顶得学生制帽的顶上高高耸起，形成一座富士山。也有解散辫子，盘得平的，除下帽来，油光可鉴，宛如小姑娘的发髻一般，还要将脖子扭几扭。实在标致极了。

中国留学生会馆的门房里有几本书买，有时还值得去一转；倘在上午，里面的几间洋房里倒也还可以坐坐的。但到傍晚，有一间的地板便常不免要咚咚咚地响得震天，兼以满房烟尘斗乱；问问精通时事的人，答道，“那是在学跳舞。”到别的地方去看看，如何呢？

我就往仙台的医学专门学校去。从东京出发，不久便到一处驿站，写道：日暮里。不知怎地，我到现在还记得这名目。其次却只记得水户了，这是明的遗民朱舜水先生客死的地方。仙台是一个市镇，并不大；冬天冷得利害；还没有中国的学生。

大概是物以希为贵罢。北京的白菜运往浙江，便用红头绳系住菜根，倒挂在水果店头，尊为“胶菜”；福建野生着的芦荟，一到北京

就请进温室，且美其名曰“龙舌兰”。我到仙台也颇受了这样的优待，不但学校不收学费，几个职员还为我的食宿操心。我先是住在监狱旁边一个客店里的，初冬已经颇冷，蚊子却还多，后来用被盖了全身，用衣服包了头脸，只留两个鼻孔出气。在这呼吸不息的地方，蚊子竟无从插嘴，居然睡安稳了。饭食也不坏。但一位先生却以为这客店也包办囚人的饭食，我住在那里不相宜，几次三番，几次三番地说。我虽然觉得客店兼办囚人的饭食和我不相干，然而好意难却，也只得别寻相宜的住处了。于是搬到别一家，离监狱也很远，可惜每天总要喝难以下咽的芋梗汤。

从此就看见许多陌生的先生，听到许多新鲜的讲义。解剖学是两个教授分任的。最初是骨学。其时进来的是一个黑瘦的先生，八字须，戴着眼镜，挟着一迭大大小小的书。一将书放在讲台上，便用了缓慢而很有顿挫的声调，向学生介绍自己道：——

“我就是叫作藤野严九郎的……”

后面有几个人笑起来了。他接着便讲述解剖学在日本发达的历史，那些大大小小的书，便是从最初到现今关于这一门学问的著作。起初有几本是线装的；还有翻刻中国译本的，他们的翻译和研究新的医学，并不比中国早。

那坐在后面发笑的是上学年不及格的留级学生，在校已经一年，掌故颇为熟悉的了。他们便给新生讲演每个教授的历史。这藤野先生，据说是穿衣服太模胡了，有时竟会忘记带领结；冬天是一件旧外套，寒颤颤的，有一回上火车去，致使管车的疑心他是扒手，叫车里的客人大家小心些。

他们的话大概是真的，我就亲见他有一次上讲堂没有带领结。

过了一星期，大约是星期六，他使助手来叫我了。到得研究室，见他坐在人骨和许多单独的头骨中间，——他其时正在研究着头骨，后来有一篇论文在本校的杂志上发表出来。

“我的讲义，你能抄下来么？”他问。

“可以抄一点。”

“拿来我看！”

我交出所抄的讲义去，他收下了，第二三天便还我，并且说，此后每一星期要送给他看一回。我拿下来打开看时，很吃了一惊，同时也感到一种不安和感激。原来我的讲义已经从头到末，都用红笔添改过了，不但增加了许多脱漏的地方，连文法的错误，也都一一订正。这样一直继续到教完了他所担任的功课：骨学、血管学、神经学。

问题 1. 仿照例句，找出文中划线句子的主语、谓语、宾语、

定语、状语、补语。助词“了”、“过”、“着”，以及连词如“但是”等不用考虑。

[刚刚]，(数学)老师**[从外面]**走<进>(我们的)教室<来>了。

藤野先生（日文）

鲁迅 著 竹内好 訳

(つづき)

遺憾ながら、当時私は一向に不勉強であり、時にはわがままでさえあつた。今でもおぼえているが、あるとき、藤野先生が私を研究室へ呼び寄せ、私のノートから一つの図をひろ

げて見せた。それは下膊の血管であつた。彼はそれを指さし

ながら、おだやかに私に言つた——

「ほら、君はこの血管の位置を少し変えたね——むろん、こうすれば比較的形がよくなるのは事実だ。だが、解剖図は美術ではない。実物がどうあるかということは、われわれは勝手に変えてはならんのだ。いまは仆が直してあげたから、今後、君は黒板に書いてある通りに書きたまえ」

だが私は、内心不満であつた。口では承諾したが、心ではこう思つた——

「図はやはり仆の方がうまく書けています。実際の状態なら、むしろ、頭のなかに記憶していますよ」

学年試験が終つてから、私は東京へ行つて一夏游んだ。秋のはじめに、また学校に戻つてみると、すでに成績が発表になつていた。百人あまりの同級生のなかで、私はまん中どころで、落第はせずに済んだ。こんどは、藤野先生の担任の学課は、解剖実習と局部解剖学とであつた。

解剖実習がはじまつてたしか一周間目ごろ、彼はまた私を呼んで、上机嫌で、例の抑揚のひどい口調でこう言つた——

「ぼくは、中国人は靈魂を敬うときいていたので、君が屍体の解剖をいやがりはしないかと思つて、ずいぶん心配したよ。まずまず安心さ、そんなことがなくてね」

しかし彼は、たまに私を困らせることもあつた。彼は、中国の女は纏足（てんそく）しているそうだが、くわしいことがわからない、と言つて、どんな風に纏足するのか、足の

骨はどんな工合に畸形になるか、などと私にただし、それから嘆息して言った。「どうしても一度見ないと、わからないね、いったい、どんな風になるものか」

ある日、同級の学生会の幹事が、私の下宿へ来て、私のノートを見せてくれと言った。取り出してやると、パラパラとめくって見ただけで、持ち帰りはしなかつた。彼らが帰るとすぐ、郵便配達が分厚い手紙を届けてきた。開いてみると、最初の文句は――

「汝悔い改めよ」

これは新約聖書の文句であろう。だが、最近、トルストイによつて引用されたものだ。当時はちょうど日露戦争のころであつた。ト翁は、ロシアと日本の皇帝にあてて書簡を寄せ、冒頭にこの一句を使つた。日本の新聞は彼の不遜をなじり、爱国青年はいきり立つた。しかし、実際は知らぬ間に彼の影响は早くから受けていたのである。この文句の次には、前学年の解剖学の試験問題は、藤野先生がノートに印をつけてくれたので、私にはあらかじめわかつていた、だから、こんないい成績が取れたのだ、という意味のことが書いてあつ

それで思い出したのは、二、三日前にこんな事件があつた。クラス会を開くというので、干事が黒板に通知を書いたが、最後の一句は「全員漏レナク出席サレタシ」とあつて、その「漏」の字の横に圈点がつけてあつた。圈点はおかしいと、そのとき感じたが、別に気にもとめなかつた。その字が、私へのあてこすりであること、つまり、私が教員から問題を漏らしてもらつたことを諷していたのだと、いまはじめて気がついた。

私は、そのことをすぐに藤野先生に知らせた。私と仲のよかつた数人の同級生も、憤慨して、いつしよに干事のところへ行つて、口実を設けてノートを検査した无礼を問責し、あわせて検査の結果を発表すべく要求した。結局、この流言は立消えになつた。すると、干事は八方奔走して、例の匿名の手紙を回牧しようとした。最後に、私からこのトルストイ式の手紙を彼らの手へ戻して、ケリがついた。

中国は弱国である。したがつて中国人は当然、低能児である。点数が六十点以上あるのは自分の力ではない。彼らが

_____だが私は、つづいて中国人の銃殺を参観する運命にめぐりあつた。第二学年では、細菌学の授業が加わり、細菌の形態は、すべて幻灯で見せることになつていた。一段落すんで、まだ放課の時間にならぬときは、時事の画片を映してみせた。むろん、日本がロシアと戦つて勝つている場面ばかりであつた。ところが、ひよつこり、中国人がそのなかにまじつて現われた。ロシア軍のスパイを働いたかどで、日本軍に捕えられて銃殺される場面であつた。取囲んで見物している群集も中国人であり、教室のなかには、まだひとり、私もいた。

「万歳！」彼らは、みな手を拍つて歓声をあげた。

この歓声は、いつも一枚映すたびにあがつたものだったが、私にとっては、このときの歓声は、特別に耳を刺した。

その後、中国へ帰つてからも、犯人の銃殺をのんきに見物している人々を見たが、彼らはきまつて、酒に酔つたように喝采する——ああ、もはや言うべき言葉はない。だが、このとき、この場所において、私の考えは変つたのだ。

第二学年の終りに、私は藤野先生を訪ねて、医学の勉強

をやめたいこと、そしてこの仙台を去るつもりであることを告げた。彼の顔には、悲哀の色がうかんだように見えた。何か言いたそうであつたが、ついに何も言い出さなかつた。

「私は生物学を習うつもりです。先生の教えてくださつた学问は、やはり役に立ちます」実は私は、生物学を習う気などなかつたのだが、彼がガッカリしているらしいので、慰めるつもりで嘘を言つたのである。

「医学のために教えた解剖学の类（たぐい）は、生物学には大して役に立つまい」彼は叹息して言つた。

出発の二、三日、彼は私を家に呼んで、写真を一枚くれた。里には「惜別」と二字書かれていた。そして、私の写真もくれるようにと希望した。あいにく私は、そのとき写真をとつたのがなかつた。彼は、後日写したら送るように、また、時おり便りを書いて以後の状況を知らせるように、としきりに慰められた。

仙台を去つて後、私は多年写真をうつさなかつた。それに状況も思わしくなく、通知すれば彼を失望させるだけだと思つたと、手紙を書く気にもなれなかつた。年月が過ぎるにつ

れて、今さら改まつて書きにくくなり、そのため、たまに書きたいと思うことはあつても、容易に筆がとれなかつた。こうして、そのまま現在まで、ついに一通の手紙、一枚の写真も送らずにしまつた。彼の方から見れば、去つてのち杳（よう）として消息がなかつたわけである。

だが、なぜか知らぬが、私は今でもよく彼のことを思い出す。私が自分の師と仰ぐ人のなかで、彼はもつとも私を感激させ、私を励ましてくれたひとりである。よく私はこう考える。彼の私にたいする熱心な希望と、倦（う）まぬ教訓とは、小にしては中国のためであり、中国に新しい医学の生れることを希望することである。大にしては学术のためであり、新しい医学の中国へ伝わることを希望することである。彼の性格は、私の眼中において、また心里において、偉大である。

彼の姓名を知る人は少いかもしれぬが。

彼が手を入れてくれたノートを、私は三冊の厚い本に綴じ、永久の記念にするつもりで、大切にしまつておいた。不幸にして七年前、引越しのときに、途中で本箱を一つこわし、そのなかの書籍を半数失つた。あいにくこのノートも、失わ

_____ 运送屋を督促して探させたが、返事もよこさなかつた。ただ彼の写真だけは、今なお北京のわが寓居の东の壁に、机に面してかけてある。夜ごと、仕事に倦んでなまけたくなる時、仰いで灯火のなかに、彼の黒い、痩せた、今にも抑揚のひどい口調で語り出しそうな顔を眺めやると、たちまちまた私は良心を発し、かつ勇気を加えられる。そこでタバコに一本火をつけ、再び「正人君子」の連中に深く憎まれる文字を書きつづけるのである。

問題2. 将上文中划线的句子翻译成现代汉语。